

2023年に梁川高校と保原高校が統合し、新しい高校ができる。そのことについて1月28日(火)に「第2回県立高校改革懇談会」が梁川高校を会場として開かれた。そこでは、コース制案が示された。以下、新聞記事から抜粋する。

普通科に進学、教養、商業 3コース新設案示す 梁川、保原高統合で改革懇  
県教委は統合校の特色として、普通科に「進学」「教養」「商業」の三つのコース(いずれも仮称)を設けるなどの検討状況を示した。

三つのコースは、生徒が将来の目標に沿って二年生時に選択するとした。このほか、ICT機器を活用した授業、地域・大学・企業と連携した進路指導、地域を学びのフィールドとした学習の実践など、統合校の特色化・魅力化の案が示された。(福島民報)

#### 保原と梁川高校統合 1学科3コース制案

県教委は、統合した学校を1学科にまとめ、学科内にコース制を導入するなどとした構成案を明らかにした。

構成案によると、設置されるのは進学、教養、商業の3コース。生徒が複数のコースから自分に合った授業を受けられることが特徴で、大学受験や就職などの進路希望に沿った学び方を選択できることを想定している。

また県教委は、統合校の特色化としてICT機器を活用した教育や、地元企業などと連携した体験学習の実施による進路指導の案を示した。(福島民友)

統合校は、伊達市唯一の公立高校として、主に伊達地区の中学生が入学することを想定している。そのため進学にも就職にも対応できるカリキュラムを普通科という枠の中で考えたときに「コース制」が出てくる。

梁川・保原統合校を含め、福島県内では2023年までに12の統合校ができる計画である。そのうち「キャリア指導推進校」が6校である。梁川・保原統合校もそのうちの一つである。ミッションや育てたい生徒像が共通なのだから検討状況は似通ってくるのが予想される。

例えば、大沼と坂下の統合校では、4年制大学などへの進学を見据えた「探求」、全商簿記実務検定など商業、情報分野を学ぶ「情報会計」、介護職員初任者研修修了などを目指す福祉・家政系の「健康福祉」の3コース(コースはいずれも仮称)案が示されている。1年次に共通科目、2・3年でコース別の授業を行うこと、ICTを取り入れた授業などは梁川・保原統合校と同様である。

今のところ梁川・保原統合校の魅力化・特色化のキーワードは「地域」である。これは大人目線で考えられたことである。実際に受験し、入学してくるのは中学生である。果たして、中学生に、この「地域」というキーワードが魅力的に映るかという問題がある。地域を学びのフィールドとした学習、地元企業などと連携した体験学習を生徒がどのくらい望んでいるのか。ある中学校の校長先生がおっしゃっていた。「中学校でもキャリア教育や進路指導を行っているが、多くの中学生は自分の進路が定まって高校を受験しているわけではない」そうであろう。大半の生徒は、高校の3年間で自分の進路を絞っていく、決めていくようになる。高校に入る時点で、将来は地元に残り地元で貢献できる人材になりたいと考えている生徒にとっては、「地域」は魅力的な学びのフィールドとなるであろう。

一方で、地元企業などと連携した体験学習などを通して、自分の将来のことを考え、就職あるいは進学を選択するのも価値のあることである。座学も必要だが体験学習から得るものは大きい。ただし、このような学習を進めていくには地元の理解、地元企業の協力が必要である。したがって、統合校のビジョンを描く中で、地元の方々、地域社会との協議を進めていかなければならない。

懇談会の委員13名の皆様からのご意見はいずれも示唆に富む貴重なものであった。これから統合校の協議を進める際の指針としたい。